

通信路符号化法 ガロア体とBCH符号

ガロア体

- 体：加減乗除の四則演算について閉じている系。
- 有限体（ガロア体）：有限個の元しか持たない体

$\text{GF}(q)$ … q は元の数（「位数」）

$\text{GF}(q) \Leftrightarrow q = p^m$ (p は素数, m は正整数)

- 素体 $\text{GF}(q)$ (p は素数) … mod 演算で作られる

素体の例

GF(2)

+	0	1
0	0	1
1	1	0

-	0	1
0	0	1
1	1	0

\times	0	1
0	0	0
1	0	1

/	0	1
0	\perp	0
1	\perp	1

素体の例

GF(7)

+	0	1	2	3	4	5	6
0	0	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6	0
2	2	3	4	5	6	0	1
3	3	4	5	6	0	1	2
4	4	5	6	0	1	2	3
5	5	6	0	1	2	3	4
6	6	0	1	2	3	4	5

×	0	1	2	3	4	5	6
0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	2	3	4	5	6
2	0	2	4	6	1	3	5
3	0	3	6	2	5	1	4
4	0	4	1	5	2	6	3
5	0	5	3	1	6	4	2
6	0	6	5	4	3	2	1

拡大体

- 拡大体 $GF(p^m)$ (p は素数, $2 \leq m$) は, 素体 $GF(p)$ に, m 次原始多項式 (周期が $p^m - 1$ となる m 次の多項式) の根を 1 個追加して体を作る.
- $GF(2)$ の m 次の拡大体 $GF(2^m)$ は, m 次原始多項式の根 α のべき: $\alpha^0, \alpha^1, \alpha^2, \dots, \alpha^{2^m-2}$ と 0 から構成する.
 - つまり, $GF(2^m) = \{0, 1, \alpha^1, \alpha^2, \dots, \alpha^{2^m-2}\}$
 - $\alpha^{2^m-1} = 1$ であり, α は $GF(2^m)$ の原始元と呼ばれる.

拡大体

例: GF(2^4)の作り方

- GF(2)上の多項式 $x^4 + x + 1$ は原始多項式である。その根を α とし、 α をGF(2)に付加した体を作つてみよう。
- この体は、基本要素の集まり $\{0, 1, \alpha\}$ を含んでいる。これを乗算と加算で閉じるまで拡張していく。
- 乗算の結果は、この体に含まれなければならない。
 $\alpha^{15} = 1$ なので、 α^i という形の要素は次のものが全てこの体に含まれる。
 $\{0, 1, \alpha, \alpha^2, \alpha^3, \alpha^4, \alpha^5, \alpha^6, \alpha^7, \alpha^8, \alpha^9, \alpha^{10}, \alpha^{11}, \alpha^{12}, \alpha^{13}, \alpha^{14}\}$
- 加算に関しては点検だけ。 $\alpha^4 + \alpha + 1 = 0$ つまり、 $\alpha^4 = \alpha + 1$ であることに注意して、すべての $\{a_3, a_2, a_1, a_0\}$ に対して、 $a_3\alpha^3 + a_2\alpha^2 + a_1\alpha^1 + a_0\alpha^0$ がこの体に含まれることを確認する。

⇒ 完了！

GF(2^4)

0

1

α

α^2

α^3

$\alpha^4 = \alpha + 1$

$\alpha^5 = \alpha^2 + \alpha$

$\alpha^6 = \alpha^3 + \alpha^2$

$\alpha^7 = \alpha^4 + \alpha^3 = \alpha^3 + \alpha + 1$

$\alpha^8 = \alpha^4 + \alpha^2 + \alpha = \alpha^2 + 1$

$\alpha^9 = \alpha^3 + \alpha$

$\alpha^{10} = \alpha^4 + \alpha^2 = \alpha^2 + \alpha + 1$

$\alpha^{11} = \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha$

$\alpha^{12} = \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 = \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1$

$\alpha^{13} = \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha = \alpha^3 + \alpha^2 + 1$

$\alpha^{14} = \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha = \alpha^3 + 1$

$\alpha^{15} = \alpha^4 + \alpha = 1$

拡大体

GF(2^m)の元のベクトル表現

- α が、 m 次原始多項式

$$F(x) = x^m + f_{m-1}x^{m-1} + \cdots + f_1x + 1$$

の根であったとする。ここで、 f_1, \dots, f_{m-1} はGF(2)の元である。

- $F(\alpha) = 0$ であるので、 $\alpha^m = f_{m-1}\alpha^{m-1} + \cdots + f_1\alpha + 1$
- これを用いると、 $\alpha^i = (i = 0, 1, \dots, 2^m - 2)$ を、GF(2)の元 a_{m-1}, \dots, a_1, a_0 を係数とする $\alpha^{m-1}, \dots, \alpha, 1$ の1次式

$$\alpha^i = a_{m-1}\alpha^{m-1} + \cdots + a_1\alpha + a_0$$
 で表すことができる。
- GF(2)の要素からなるGF(2)上の係数ベクトル
 $(a_{m-1}, \dots, a_1, a_0)$
 をGF(2^m)の元のベクトル表現と呼ぶ。

例

べき表現	$\alpha^3, \alpha^2, \alpha^1, \alpha^0$ による展開	ベクトル表現
0	0	0000
1	1	0001
α	α	0010
α^2	α^2	0100
α^3	α^3	1000
α^4	$\alpha + 1$	0011
α^5	$\alpha^2 + \alpha$	0110
α^6	$\alpha^3 + \alpha^2$	1100
α^7	$\alpha^3 + \alpha + 1$	1011
α^8	$\alpha^2 + 1$	0101
α^9	$\alpha^3 + \alpha$	1010
α^{10}	$\alpha^2 + \alpha + 1$	0111
α^{11}	$\alpha^3 + \alpha^2 + \alpha$	1110
α^{12}	$\alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1$	1111
α^{13}	$\alpha^3 + \alpha^2 + 1$	1101
α^{14}	$\alpha^3 + 1$	1001
α^{15}	1	0001

拡大体

$p > 2$ に対する素体 $\text{GF}(p)$ の拡大も同様に行う.

例: $\text{GF}(3)$ の2次の拡大体 $\text{GF}(3^2)$ の構成

(1) $\text{GF}(3)$ の原始多項式の探索: 下記の通り, $x^2 + x + 2$ は原始多項式である.

$$\begin{array}{r} 1 \quad 2 \quad 2 \quad 0 \quad 2 \quad 1 \quad 1 \\ 1 \quad 0 \quad 2 \\ \hline 1 \quad 1 \quad 2 \\ 2 \quad 1 \quad 0 \\ 2 \quad 2 \quad 1 \\ \hline 2 \quad 2 \quad 0 \\ 2 \quad 2 \quad 1 \\ \hline 0 \quad 2 \quad 0 \\ 0 \quad 0 \quad 0 \\ \hline 2 \quad 0 \quad 0 \\ 2 \quad 2 \quad 1 \\ \hline 1 \quad 2 \quad 0 \\ 1 \quad 1 \quad 2 \\ \hline 1 \quad 1 \quad 2 \\ \hline 0 \end{array}$$

$(x^2 + x + 2) \mid (x^{3^2-1} - 1)$
かつ,
 $n < 3^2 - 1$ なる n に対して
 $(x^2 + x + 2) \mid (x^n - 1)$
とならない.

拡大体

GF(3)の2次の拡大体GF(3^2)の構成 (つづき)

(2) $x^2 + x + 2$ の根を β と置いて、 GF(3)を拡張する。 $\beta^2 + \beta + 2 = 0$ であるから、

$$\beta^2 = -\beta - 2 = 2\beta + 1$$

$$\beta^3 = 2\beta^2 + \beta = 2(2\beta + 1) + \beta = 2\beta + 2$$

$$\beta^4 = 2\beta^2 + 2\beta = 2(2\beta + 1) + 2\beta = 2$$

$$\beta^5 = 2\beta$$

$$\beta^6 = 2\beta^2 = 2(2\beta + 1) = \beta + 2$$

$$\beta^7 = \beta(\beta + 2) = \beta^2 + 2\beta = 2\beta + 1 + 2\beta = \beta + 1$$

$$\beta^8 = \beta(\beta + 1) = \beta^2 + \beta = 2\beta + 1 + \beta = 1$$

さらに、 $b_1\beta + b_0$ $b_i \in \text{GF}(3)$ が全部そろっているから

$$\text{GF}(3^2) = \{0, 1, \beta, \beta^2, \beta^3, \beta^4, \beta^5, \beta^6, \beta^7\}$$

となっていることがわかる。 ■

拡大体

GF(3^2)のべき表現とベクトル表現

GF(3^2)のべき表現	$b_1\beta + b_0$ 形式の表現	ベクトル表現
0	0	00
1	1	01
β	β	10
β^2	$2\beta + 1$	21
β^3	$2\beta + 2$	22
β^4	2	02
β^5	2β	20
β^6	$\beta + 2$	12
β^7	$\beta + 1$	11

BCH符号

t 誤り訂正可能なBCH符号

- $d = 2t + 1$ とする. $d < 2^m - 1$ となるように m を選ぶ. GF(2^m)の原始元を α とする.
- $\alpha^l, \alpha^{l+1}, \dots, \alpha^{l+d-2}$ をすべて根として持つ最小次数のGF(2)上の多項式を生成多項式とする符号長 $n = 2^m - 1$ の2元巡回符号がBCH符号である.
- l はふつう1か0に選ばれる. このBCH符号は(少なくとも) t 誤り訂正可能
- 最もよく用いられるBCH符号: $l = 1, d = 2t + 1$.
- このとき, 生成多項式は, $2t$ 個の元: $\alpha, \alpha^2, \dots, \alpha^{2t}$ を根とする最小次数の多項式

$$G(x) = \text{LCM}(m_1(x), m_2(x), \dots, m_{2t}(x))$$

として与えられる.

BCH符号

- $m_i(x)$ は α^i を根とする最小次数の多項式であり, α^i の最小多項式と呼ばれる. また, $m_i(x)$ の x^0 の係数は1である. すなわち,

$$m_i(x) = x^p + \cdots + a_1x + 1$$

という形をしている.

- α^i は, GF(2)上の m 次ベクトルとして表現できるので, 未知数が m 個の連立1次方程式を解くことにより,

$$m_i(\alpha^i) = \alpha^{ip} + \cdots + a_1\alpha^i + 1 = 0$$

を満足するGF(2)上の多項式 $m_i(x)$ を定めることができる.

- $m_i(x)$ は高々 m 次多項式である
- 従って,

$$G(x) = \text{LCM}(m_1(x), m_2(x), \dots, m_{2t}(x))$$

は高々 $2mt$ 次多項式である.

BCH符号

- GF(2)上の多項式 $F(x) = f_sx^s + f_{s-1}x^{s-1} + \cdots + f_1x + f_0 = 0$ の根を β とすると、 β^2 も根である。なぜならば、

$$\begin{aligned}F^2(x) &= (f_sx^s + f_{s-1}x^{s-1} + \cdots + f_1x + f_0)^2 \\&= f_sf_sx^{s+s} + f_{s-1}f_{s-1}x^{(s-1)+(s-1)} + \cdots + f_0f_0 \\&\quad + f_sf_{s-1}x^{s+(s-1)} + f_{s-1}f_sx^{(s-1)+s} \\&\quad + f_sf_{s-2}x^{s+(s-2)} + f_{s-2}f_sx^{(s-2)+s} \\&\quad + \cdots + f_1f_0x^{1+0} + f_0f_1x^{0+1} \\&= f_sx^{2s} + f_{s-1}x^{2(s-1)} + \cdots + f_0 = F(x^2)\end{aligned}$$

であるので、 $F(\beta) = 0$ ならば、 $F(\beta^2) = 0$ であるから。

- このように t 個の元: $\alpha, \alpha^3, \dots, \alpha^{2t-1}$ を根とする最小次数の多項式の次数は mt 以下であり、それを生成多項式として使うBCH符号の検査ビット数 $n - k$ を mt 以下にすることができる。

BCH符号

- BCH限界:BCH符号の最小距離 d_{\min} は $d_{\min} \geq d$ を満たす.
- BCH符号は、次のように特徴づけられる巡回符号である.

符号長 $n = 2^m - 1$

情報ビット数 $k \geq 2^m - 1 - mt$

誤り訂正能力 $t_0 \geq t$

BCH符号

(例) 原始多項式 $x^4 + x + 1$ (根を α とする)を用いて, $m = 4, t = 2$ とする(少なくとも)2誤り訂正能力をもつ(15,7)BCH符号を構成する.

(1) 生成多項式の構成

$m_1(x)$: α を根とする多項式 \rightarrow 原始多項式そのもの : $x^4 + x + 1$

$m_3(x)$: α^3 を根とする多項式 : $x^4 + x^3 + x^2 + x + 1 \rightarrow$ 求め方は次スライド

生成多項式 : $GF(x) = \text{LCM}(m_1(x), m_3(x))$

$$\begin{aligned} &= (x^4 + x + 1)(x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) \\ &= x^8 + x^7 + x^6 + x^4 + 1 \end{aligned}$$

(2) 符号語は $G(x)$ を使って巡回符号の場合と同様に構成する.

BCH符号

$m_3(x)$ の求め方：

$$m_3(x) = a_4x^4 + a_3x^3 + a_2x^2 + a_1x + 1$$

と置き、

$$m_3(\alpha^3) = a_4\alpha^{12} + a_3\alpha^9 + a_2\alpha^6 + a_1\alpha^3 + 1 = 0$$

が満たされるような $\{a_4, a_3, a_2, a_1\}$ を求める。

ベクトル表現を使うと、上式は、

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} a_4 + \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} a_3 + \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} a_2 + \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} a_1 + \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} = 0$$

となる。

これを解いて、

$$a_4 = 1, a_3 = 1, a_2 = 1, a_1 = 1$$

を得る。

BCH符号の復号

- 受信多項式 $Y(x) = y_{n-1}x^{n-1} + \cdots + y_1x + y_0$ に対して,

$$S_i = Y(\alpha^i) \quad (i = 1, 2, \dots, 2t)$$

によりシンドローム S_1, S_2, \dots, S_{2t} を計算する.

- シンドロームがすべて0ならば, 誤りなしと判定する.
- シンドロームのなかに0でないものがあるときは, j_1, j_2, \dots, j_l を誤り位置と仮定して, シンドロームから誤り位置多項式

$$\sigma(z) = (1 - \alpha^{j_1}z)(1 - \alpha^{j_2}z) \cdots (1 - \alpha^{j_l}z)$$

を構成する.

- $\sigma(z) = 0$ の根 $\alpha^{-j_1}, \alpha^{-j_2}, \dots, \alpha^{-j_l}$ を求める.
- $\alpha^{-j_1}, \alpha^{-j_2}, \dots, \alpha^{-j_l}$ から, j_1, j_2, \dots, j_l を求め, これらの位置の記号を訂正する.

BCH符号の復号

誤りが2個、すなわち、 $t = 2$ の場合について、与えられたシンドローム $\{S_1, S_2, S_3, S_4\}$ から、未知の誤りに対する誤り位置方程式を構成する方法：

目標の誤り位置多項式は、

$$\sigma(z) = (1 - \alpha^{j_1}z)(1 - \alpha^{j_2}z) = 1 + (\alpha^{j_1} + \alpha^{j_2})z + \alpha^{j_1}\alpha^{j_2}z^2$$

という形式をしている。

定義により、

$$S_1 = \alpha^{j_1} + \alpha^{j_2}$$

$$S_3 = \alpha^{3j_1} + \alpha^{3j_2}$$

さらに、

$$S_1^3 = (\alpha^{j_1} + \alpha^{j_2})^3 = \alpha^{3j_1} + \alpha^{3j_2} + \alpha^{j_1}\alpha^{j_2}(\alpha^{j_1} + \alpha^{j_2}) = S_3 + \alpha^{j_1}\alpha^{j_2}S_1$$

から

$$\alpha^{j_1}\alpha^{j_2} = (S_1^3 + S_3)S_1^{-1}$$

が得られるので、

$$\sigma(z) = 1 + S_1z + (S_1^3 + S_3)S_1^{-1}z^2$$

BCH符号の復号

【例題】 GF(2)上の原始多項式 $x^4 + x + 1$ の原始元 α をGF(2)に加えて得られるGF(2⁴)の根 α, α^3 を根に持つ多項式 $x^8 + x^7 + x^6 + x^4 + 1$ を生成多項式とする(15,7)BCH符号において、ある符号語を送ったところ、受信語111000011110010が得られたという。もとの入力語は何であったか？ただし、誤りは高々2個であると仮定する。

解

(a) 受信語の多項式表現は、

$$x^{14} + x^{13} + x^{12} + x^7 + x^6 + x^5 + x^4 + x$$

(b) シンドローム $\{S_1, S_3\}$ は

$$S_1 = \alpha^{14} + \alpha^{13} + \alpha^{12} + \alpha^7 + \alpha^6 + \alpha^5 + \alpha^4 + \alpha = \alpha^2 + 1 = \alpha^7$$

$$S_3 = \alpha^{42} + \alpha^{39} + \alpha^{36} + \alpha^{21} + \alpha^{18} + \alpha^{15} + \alpha^{12} + \alpha^3 = \alpha^7$$

BCH符号の復号

(c) 誤り位置方程式は,

$$\sigma(z) = 1 + S_1 z + (S_1^3 + S_3) S_1^{-1} z^2 = 1 + \alpha^7 z + \alpha^3 z^2$$

(d) $\sigma(1), \sigma(\alpha), \sigma(\alpha^2), \dots, \sigma(\alpha^{14})$ を順に計算する.

$$\sigma(\alpha^0) = 1 + \alpha^7 + \alpha^3 = 1 + (\alpha^3 + \alpha + 1) + \alpha^3 = \alpha$$

$$\sigma(\alpha^1) = 1 + \alpha^8 + \alpha^5 = 1 + (\alpha^2 + 1) + (\alpha^2 + \alpha) = \alpha$$

$$\sigma(\alpha^2) = 1 + \alpha^9 + \alpha^7 = 1 + (\alpha^3 + \alpha) + (\alpha^3 + \alpha + 1) = 0$$

$$\sigma(\alpha^3) = 1 + \alpha^{10} + \alpha^9 = 1 + (\alpha^2 + \alpha + 1) + (\alpha^3 + \alpha) = \alpha^3 + \alpha^2 = \alpha^6$$

$$\sigma(\alpha^4) = 1 + \alpha^{11} + \alpha^{11} = 1$$

$$\begin{aligned}\sigma(\alpha^5) &= 1 + \alpha^{12} + \alpha^{13} = 1 + (\alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1) + (\alpha^3 + \alpha^2 + 1) \\ &= \alpha + 1 = \alpha^4\end{aligned}$$

$$\sigma(\alpha^6) = 1 + \alpha^{13} + \alpha^{15} = 1 + (\alpha^3 + \alpha^2 + 1) + 1 = \alpha^3 + \alpha^2 + 1 = \alpha^{13}$$

$$\sigma(\alpha^7) = 1 + \alpha^{14} + \alpha^{17} = 1 + (\alpha^3 + 1) + \alpha^2 = \alpha^3 + \alpha^2 = \alpha^6$$

BCH符号の復号

$$\sigma(\alpha^8) = 1 + \alpha^{15} + \alpha^{19} = 1 + (\alpha + 1) + 1 = \alpha + 1 = \alpha^4$$

$$\sigma(\alpha^9) = 1 + \alpha^{16} + \alpha^{21} = 1 + \alpha + (\alpha^3 + \alpha^2) = \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1 = \alpha^{12}$$

$$\sigma(\alpha^{10}) = 1 + \alpha^{17} + \alpha^{23} = 1 + \alpha^2 + (\alpha^2 + 1) = 0$$

$$\sigma(\alpha^{11}) = 1 + \alpha^{18} + \alpha^{25} = 1 + \alpha^3 + (\alpha^2 + \alpha + 1) = \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha = \alpha^{11}$$

$$\begin{aligned}\sigma(\alpha^{12}) &= 1 + \alpha^{19} + \alpha^{27} = 1 + (\alpha + 1) + (\alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1) \\ &= \alpha^3 + \alpha^2 + 1 = \alpha^{13}\end{aligned}$$

$$\sigma(\alpha^{13}) = 1 + \alpha^{20} + \alpha^{29} = 1 + (\alpha^2 + \alpha) + (\alpha^3 + 1) = \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha = \alpha^{11}$$

$$\sigma(\alpha^{14}) = 1 + \alpha^{21} + \alpha^{31} = 1 + (\alpha^3 + \alpha^2) + \alpha = \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1 = \alpha^{12}$$

(e) 以上から、誤り位置多項式が次のように分解されることが分かる。

$$\sigma(z) = (1 + \alpha^{-2}z)(1 + \alpha^{-10}z)$$

(f) ゆえに、誤り位置: $\alpha^{-2} = \alpha^{13} = \alpha^{j_1}, \alpha^{-10} = \alpha^5 = \alpha^{j_2}$ の2か所。つまり

入力語: 101000011010010

BCH符号の基本的性質

BCH符号の最小距離 d_{\min} は $d_{\min} \geq d$ を満たす.
(d は BCH 限界と呼ばれる)

証明

GF(2^m) の原始元を α とし, $n = 2^m - 1$ とおく.

(a) j を $0 \leq j < n$ となる整数とすれば, 次の等式が成り立つ.

$$\sum_{i=0}^{n-1} \alpha^{ij} = \begin{cases} 1 & ; j = 0 \\ 0 & ; \text{その他} \end{cases}$$

BCH符号の基本的性質

(b) GF(2^m)上のn次元ベクトル $w = (w_0, w_1, \dots, w_{n-1})$ に対し,

$$\tilde{w}_j = \sum_{i=0}^{n-1} w_i \alpha^{ij} \quad (j = 0, 1, \dots, n-1)$$

と置くと,

$$w_i = \sum_{j=0}^{n-1} \tilde{w}_j \alpha^{-ij} \quad (i = 0, 1, \dots, n-1)$$

が成立する.

(c) $1, \alpha, \dots, \alpha^{d-2}$ を根とする生成多項式 $G(x)$ から生成される符号長 n の符号 $w = (w_0, w_1, \dots, w_{n-1})$ のフーリエ変換を $\tilde{w} = (\tilde{w}_0, \tilde{w}_1, \dots, \tilde{w}_{n-1})$ とすると,
 $\tilde{w}_0 = \tilde{w}_1 = \dots = \tilde{w}_{d-2} = 0$ が成立する.

BCH符号の基本的性質

従って,

$$\tilde{W}(x) = \tilde{w}_{n-1}x^{n-1} + \cdots + \tilde{w}_{d-1}x^{d-1} = (\tilde{w}_{n-1}x^{n-d} + \cdots + \tilde{w}_{d-1})x^{d-1}$$

であり, $\tilde{W}(x) = 0$ の非零の根は高々 $n - d$ 個である.

従って,

$$w_i = \sum_{j=0}^{n-1} \tilde{w}_j \alpha^{-ij} \quad (i = 0, 1, \dots, n-1)$$

と規定される w_i のうち 0 になるものは高々 $n - d$ 個しかない.

従って, どの符号も 0 との距離は d 以上であり, BCH 符号の線形性から $d_{\min} \geq d$ が示された.

(d) $\alpha^l, \alpha^{l+1}, \dots, \alpha^{l+d-2}$ を根とする生成多項式を用いて BCH 符号を構成する場合も上と同様. ■

まとめ

- ガロア体
 - 素体
 - 素体の拡張
- BCH符号
 - 構成法
 - 復号法
 - 基本的性質